

天守閣の構造

犬山城の天守は、元の状態で保存されている古いとされる天守です。城郭の中心として、最も奥の敷地内にあり、武器庫、領主の部屋、望楼が含まれているため、かつてはより大きな複合施設で最も重度の要塞化された建物でした。

外から見ると、天守は3層に見えますが、内部は合計6層あり、2つの層が石のベースに収容されています。

地下

城の入り口には、自然な状態の石を使用して組み立てられた壁があります。部屋を通る厚い木製の梁が、天守を支える梁です。

1階

1階には、上段の間、納戸の間、第一の間・第二の間があります。戦士の隠れ場所、石落としの間、付櫓など、防御機能もあります。

二階

長く急な階段は、鎧を着た侵入者の速度を落とすように設計された武具の間に通じています。

弓と矢、剣と武器が置かれていたと伝わる武具の棚は、3つの壁に並んでいます。

三階

弓のような切妻の中に部屋があります。成瀬氏が増築したと言われます。

四階

望楼は、城下町の格子状のデザインや要塞を保護するために使用される地形など、周辺地域の壮観な360度の景色をご覧いただけます。